



これからも 「健太」とともに

溝渕賢二くん(大埴農業高校三年)

NHK青年の主張全国コンクールで最優秀賞

一月十五日の「第二十六回NHK青年の主張全国コンクール全国大会」に四国代表として出場した溝渕賢二くん(南国市大埴)が、みごと最優秀、文部大臣奨励賞に輝きました。

溝渕くんは県立高知農業高校三年生、十八歳。家業の建材店の手伝いをするかたわら、高知県子供会連合会のリーダーとして、三級腹話術師の特技を生じて幅広い活

動しており、「私の挑戦」と題して日頃の「笑いのボランティア活動」を発表したものです。「卒業して、どんな進路をとろうとも、健太」といっしょに活動を続けていきます」と話す溝渕くん、ほんとうにおめでとう。これからはがんばってください!

私の挑戦

私は現在高知農業高校の三年で笑いのボランティアに取り組んでいます。というのは、おととしの一月に初心者腹話術講習会で四級腹話術師に認定され、せがれ「健太」と共に保育園、幼稚園、子ども会、老人ホームなどを訪問しているというしだいです。

私が腹話術に挑戦したいと思っただきつけは、中学一年の時に南国市の子どものリーダーになり、その活動の中で初めて腹話術に接し、子どもたちをすっかりとりこにしたのを見て、「こんなことはあかんたんじやいか、人形をつれて子ども会を回ったらきつと公がもり上って楽しくなるだろう」と考

えたからです。

どうにかして習いたいと思っただけの素人にしては、運よくその初心者講習会が高知であると知りましただけで、講習会が金曜、土曜とわかれ学校を休んでまではとあきらめかけたけれど、講習会の世話をしておられた森岡さんにお願ひに行きました。最初は返事のおもかつた森岡さんも、なんとか学校が放課になってから受講できるように骨をおつてくださいました。

簡単そうに思っていた腹話術も、こうして習うとなると、みんなが台本の練習をしている横で半日分の発声練習を三十分で習い、後は自力でついて行かなければなりません。まず第一に腹式呼吸の練習、人形操作法、演出法、はなしの間

についてなど、まったくの素人にとりかかると、一度に、しかも他人が一泊二日受ける講習を私は半分以下の七時間ぐらいで詰め込まなければならぬということに、最初の意気込みも何度かくじけそうになりました。

つらさより自分の思うようになり人形が動いてくれないのがゆきが大きく、台本どりにうまくいかなかったと思ったら「人形が死んでいる」といわれ、発声がうまくいったと思っても「間の取り方が悪い」と言われながらも、ついに満点で認定試験に合格しました。

人形に健太と名前をつけて服を着せると、何んだか父親になった気分です。それから毎日のように健太と二人であつちこつちを訪問

しました。最初のうちはとにかく場数を踏んで慣れることです。帰って来たらこんどはカガミを見て人形操作の練習。発声練習にはふる場が最適で大声を響かせていると、家族から「また始まったよ」とか「もうやめてくれ」とよく言われました。

ある保育園を訪問したとき、公演が終わってからの子どもたちが口々に「あの人形は電池がはいっちゃうき動くがじや」とか「アホー、後ろのボタンでもの言わしゅうがぞ」、「ちがうぞ、あれはコンピュータ」がはいっちゃうきぞ」と言い合うのが聞かれました。来た時には変な目で私を見ていたのに、帰る時には健太のはいったカバンをなでながら「おにいちゃん、

また来てよ」と言う声に変わったの聞き、私はこの子たちの目に健太は生きた人形として映っているんだ」と初めて小さな自信と大きな喜びを感じたのでした。

老人ホームでは寝たきりのおばあさんが、健太の手を取って涙ぐんでしまい、おこづかいを健太のポケットにねじこみに来る。私が「いらぬ」と言うと「あなたにやりゆうがじやない、この子にやりゆうがじや」と健太が「おばあちゃん、いらぬよ」と言うと「子どもはそんな遠慮するもんじやない」と怒りだすので返す言葉がなくなつたとき、おばあさんが「ええかね、この人にとられなさんなよ」と言うのに健太はおもわず「ハイ」と言っしまいました。この人とはもちろん私のことです。

こうして練習を重ねて七カ月後には、高知県で三人目の三級腹話術師の資格をとることができました。今では健太は私の身体の一部です。卒業してどんな進路をとろうとも、健太と離れることは考えられません。反応の遅かった老人たちにやつと浮かんだ笑顔が私の脳裏にやきついていきます。

これからももっとたくさんの子どもたちや笑いのない場所へ健太を連れて、笑いのボランティア活動に私は挑戦し続けるつもりです。(なお、この文は1月15日放送のNHK青年の主張全国コンクールから収録、転載したものです。)